

～「読みたい・識りたい」そういう図書館がある～

資料紹介 テーマ「今年の干支 **戌**」

窓から

『作家の犬』

コロナ・ブックス
編集部／編
平凡社



家族であり兄弟であり友である、作家と犬。その暮らしを一番近くで見てきた家族や友人が綴ったエッセイ。

志賀直哉や菊池寛、川端康成といった文豪の様々なエピソードから、日々の暮らしのひと時と作家の犬への溢れる愛情が垣間見える一冊です。

『ソウルメイト』

はせ せいしゅう 著
集英社



小さくて愛くるしいがしつけの難しいジャックラッセル、不治の病に侵されたバーニーズなど7種類の犬と人との絆を描いた短編集です。言葉を交わせない犬と心を通わせて暮らすには？

愛犬家はもちろん、これから犬を飼う人にも是非読んでもらいたい作品です。

戌年

『日本の犬 十二支第十一番戌・犬』

高岡 一弥／アートディレクション
久留 幸子／写真
ピエ・ブックス



柴犬・秋田犬・北海道犬の天然記念物に指定された3犬種の他、琉球犬や日本テリアなど“日本の犬”がテーマの写真集です。丸めた尻尾が可愛らしい写真や立ち姿が凛々しい写真が収録されています。

日本にはこんなに多くの種類の犬がいたのだと、驚かされます。

『スピンク日記』

町田 康／著
講談社



主人公は犬のスピンク。作家である主人を「ポチ」と呼び、犬の目線から作者との生活を綴ったエッセイです。

作者の失敗談などが自嘲もこめてユーモラスに描かれていると同時に、スピンクへの深い愛情を感じずにはられません。可愛らしい写真も見どころです。

中央図書館スタッフの

図書館の思い出

平成 30 年は、長岡市に互尊文庫が開館して 100 年目にあたります。

長岡市立図書館ではこれを記念して、利用者みなさんから図書館の思い出を募集しています。そこで今回は、図書館スタッフに図書館の思い出を語ってもらいました。

今年度から約 20 年振りに中央図書館で働くことになりました。20 年前と比べて、図書館はどんなところが変わったのか考えてみました。

- ①貸出冊数が3冊から10冊へ。今思うと、昔は少なかったですね。
- ②中央図書館に自習室ができました。今は1年間で1万人以上の方が利用しているんですよ。
- ③移動図書館「米百俵号」が何と2台になっていました。各支所地域や学校、保育園などに100か所以上巡回しています。

他にも変わったことがあると思いますが、では、変わっていないことは何かあるのでしょうか？ うーん、やっぱり本や雑誌などがあるってことですね。中央図書館には現在40万冊を超える本・雑誌などの資料があります。

さて、この20年でインターネットやスマートフォンが普及して、情報収集に関しては本当に便利になりました。ただ、これらは断片的な情報であって、実用書のように体系的なモノの考え方、また、フィクションで描かれる人の心情の分かち合いといったものは、本が優れていると言われていました。両方の良い面、苦手な面を把握した上で、多くの方が活用できる仕組みが必要でしょう。図書館は時代の流れに合わせて成長しています。そして、今後も将来を見据えて成長し、長岡にとって必要な図書館、いいところと思われる図書館でありたいと思います。

最後に、長岡の図書館はやっぱりいいところですよ！（U）

私の思い出の図書館は、やっぱり互尊文庫です。近くの小学校に通っていた私にとって、互尊文庫は楽しい遊び場でした。明治公園で遊んだあと、児童コーナーで友だちと本を読んだり、飽きたらテラスから飛び降りたり（現在は入ることはできません）、そしてまた明治公園で遊んでみたりと、勝手気ままに過ごした思い出があります。特に楽しかった思い出は、冬のお楽しみ会です。近隣の小学生はみな、とても楽しみにしていました。ポスターが掲示されるとすぐに友だちと参加申し込みをしたことを覚えています。3階自習室が会場で本の読み聞かせがあり、最後にプレゼントをもらって帰る、とてもスペシャルで素敵なイベントでした。

それから、図書館司書みなさんに優しくしてもらったことも良い思い出です。本のことについて、いろいろ教えてもらいました。

自分にとって図書館はとても楽しい場所だったので、いまの子どもたちにも、大人の方にもそう思ってもらえたらと思って、仕事をしています。（I）

いかがでしたか？ スタッフ一同、利用者みなさんにも思い出に残る図書館となるよう、これからも励んでいきたいと思っています。今年もよろしく願いいたします。



新しい年を迎えました。長岡市立図書館では、本年いよいよ開館 100 周年を迎えます。6 月 8 日の創立記念日を中心に様々なイベントを実施しますので、どうぞご期待下さい。

さて、昨年の図書館界は、カズオ・イシグロ氏のノーベル文学賞受賞や出版社社長の図書館での文庫本貸し出しについての問題提起など、さまざまな話題がありました。そこで、公共図書館が果たす役割について、改めて考えてみたいと思います。

図書館は、国民の教育と文化の発展に寄与するために、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設として図書館法に定められています。

公共図書館はこの法律の趣旨にのっとり、地域の皆さんが図書や新聞、雑誌、CD などの視聴覚資料やその地域に関係する郷土資料などを気軽に利用できるよう努めています。また、図書館司書が調査のお手伝いをするレファレンスサービス、インターネットを利用したデータベース閲覧など、図書館サービスの幅は年々広がっています。

図書館は、単に本を借りる所とっていらっしやる方も多いと思いますが、図書館が持つ多くの情報・サービスを大いに活用してください。

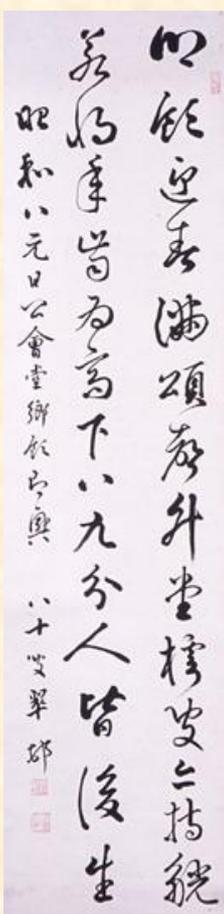
昨年、長岡市出身の天才プログラマー清水亮さんが小学校時代から中央図書館に通われた思い出をお話いただく機会がありました。インタビューの内容は、図書館で小冊子として配布しているほか、長岡市や図書館のホームページでもご紹介していますので、既にご覧いただいている方も多いかと思います。

人工知能分野の第一線で御活躍の清水さんは、「図書館は多様性を育む場所」として、「小学校からの図書館通いで教養が身に付いた」とお話しください、図書館であらゆるジャンルの本や雑誌を読まれ、子どもころからいいものをたくさん見ることで良さや価値がわかるようになり、多様性が生まれ、人工知能こそ多様性が必要な分野とおっしゃっています。

インターネットの普及により電子書籍をはじめ、様々な情報手段にあふれている昨今ですが、知の宝庫としての図書館の真価を今一度思い起こしてみたいものです。

(山田あゆみ)

中央図書館所蔵資料紹介 No.155 高橋翠村 書



郷飲迎春満頌声
升堂樽叟亦持觥
若将年齒為高下
八九分人皆後生

郷飲春を迎えて頌声満つ
堂にのぼつて樽叟(自分)もまた觥(大きな盃)を持す
もし年齒を將つて高下を為せば
八、九分の人は皆後生

高橋翠村(号、1854~1944)は安政元年、長岡藩士長沢赤城(金太郎)の子、茂二郎として生まれ、藩の儒者・山田到処や小林虎三郎に学び影響をうけました。

北越戊辰戦争がはじまると、大叔父のいる秋山郷(中魚沼郡津南町)へ預けられます。父はこの戦の犠牲となり、会津飯寺村(会津若松市)において壮絶な最期を遂げました。

その後翠村は、川治村(十日町市)の高橋家を継ぎ高橋茂一郎と名乗り、明治7年(1874)には若くして十日町の小学校の校長となります。30代で長岡に戻り、旧制長岡中学校等の学生に教えるだけでなく、広く漢学の講義を行い、また漢詩も多く残しました。

この詩は昭和8年(1933)元日、長岡市公会堂で開かれた新年祝賀会の折に詠んだもので、翠村80歳の作です。

地元の人々と、和気あいあい盃を酌み交わし新春を祝う翠村。しかし見渡せばどの顔も年下ばかり。長寿は喜ぶべきことですが、それゆえに同世代の仲間を見送ってきた寂しさがふと湧き上がったのでしょうか。

(小熊よしみ)

※大正15年に長岡の旅館業・大野甚松が長岡市に寄付。

3階建てで1,500人収容可能なホール、食堂、娯楽室を備えたモダンな施設。

☆ 1月9日(火)から30日(火)まで中央図書館のエントランスで展示します。

1月～3月 イベント

平成30年は図書館開館100周年
あなたのそばにいつも図書館



講座

1/24 (水) 図書館資料に親しむ初心者向け講座
「くずし字を読んでみよう」

～ものがたりのルーツ竹取物語



中央図書館所蔵の和本をテキストにした初心者向けのくずし字講座です。

- ◆講師：小熊 よしみ (当館嘱託員)
- ◆時間：10:30-12:00 ◆会場：2階 講座室1
- ◆定員：30人 (先着) ◆対象：高校生以上
- ◆申込：1/10 (水) 9:30～窓口・電話で



3/11 (日) 文芸講演会

「いわさきちひろと世界の絵本画家」

～絵本の絵を読む楽しさ～



第二次子ども読書活動推進計画策定に合わせ、絵本の絵を読む楽しさについて講演します。

- ◆講師：松本 猛さん ◆時間：14:00-15:30
 - ◆会場：2階 講堂 ◆定員：180人 (先着)
 - ◆対象：高校生以上 ◆一時保育：5人 (6ヶ月以上)
 - ◆申込：2/11 (日) 9:30～窓口・電話・HPで
- ※蔵書点検期間 2/19(月)-2/28(水)はホームページのみ受付



松本猛 まつもと・たけし

1951年、いわさきちひろ・松本善明の子として東京で生まれる。絵本学会会長、横浜美術大学客員教授、ちひろ美術館常任顧問。1977年にちひろ美術館・東京、97年に安曇野ちひろ美術館を設立。同館館長、長野県信濃美術館・東山魁夷館館長を歴任。著書『いわさきちひろ』『ちひろのぬくもり』(講談社)など他多数。

長岡市子ども読書活動推進計画

～ずっとかたわらに本のある暮らしを～

映画会

★入場無料・申込不要 2階講堂

14:00～(開場13:30～) 2/11は10:00～



1/12 (金) 「ジェイン・エア」

1996年/イギリス (113分)

1/28 (日) 「セバスチャン・サルガド」

地球へのラブレター

2014年/フランス・ブラジル・イタリア (110分)

2/11 (日) ～アカデミー賞受賞名作映画会～

「真昼の決闘」

1952年/アメリカ (85分) 10:00～

「欲望という名の電車」

1951年/アメリカ (122分)

3/6 (火) 「モスクワは涙を信じない」

1979年/旧ソ連 (149分)

3/24 (土) 「フレンチ・カンカン」

1954年/フランス (104分)



図書館の思い出
大募集!!



申込み締切 1/30



特別図書整理に伴う長期休館と
貸出点数変更について

下記の長期休館に伴い、1/22 (月)～2/18 (日)の間、貸出し点数を20点まで(内、視聴覚資料は6点まで)とします。

館名	休館する期間
中央	2/19 (月)～2/28 (水)
互尊文庫 西・南・北	2/7 (水)～2/12 (月)
寺泊 大河津・栃尾	2/9 (金)～2/13 (火)

※なお、中之島地域図書館は、3/31まで臨時休館中です。

平成30年1月1日

長岡市立中央図書館 編集・発行

長岡市学校町1-2-2 TEL 0258-32-0658

mail: lib@city.nagaoka.niigata.jp